【公報種別】特許法第１７条の２の規定による補正の掲載
【部門区分】第６部門第２区分
【発行日】平成16年12月24日(2004.12.24)

【公開番号】特開2003-107512(P2003-107512A)
【公開日】平成15年4月9日(2003.4.9)
【出願番号】特願2001-294713(P2001-294713)
【国際特許分類第７版】
　Ｇ０２Ｆ　1/1345
　Ｇ０２Ｆ　1/1339
　Ｇ０９Ｆ　9/30
　Ｇ０９Ｆ　9/35
【ＦＩ】
　Ｇ０２Ｆ　1/1345
　Ｇ０２Ｆ　1/1339　５０５
　Ｇ０９Ｆ　9/30　３２０
　Ｇ０９Ｆ　9/30　３３０Ｚ
　Ｇ０９Ｆ　9/35

【手続補正書】
【提出日】平成16年1月22日(2004.1.22)
【手続補正１】
【補正対象書類名】明細書
【補正対象項目名】特許請求の範囲
【補正方法】変更
【補正の内容】
【特許請求の範囲】
【請求項１】
第１の駆動用電極および第１の基板間導通用端子が複数形成された第１の基板と、第２の駆動用電極および第２の基板間導通用端子が複数形成された第２の基板と、対向配置された前記第１基板と前記第２の基板との間をシールする矩形枠状のシール領域と、該シール領域で区画された領域内に保持された電気光学物質とを有し、前記シール領域には、前記第１の基板間導通用端子と前記第２の基板間導通用端子とを導通させる導電材を含有する第１のシール材と、導電材を含有しない第２のシール材とが塗布された電気光学装置において、
前記シール領域の４辺のうち、前記第１の基板間導通用端子と前記第２の基板間導通用端子とによる基板間導通を行う基板間導通領域が位置する辺上には、その全体にわたって前記第１のシール材が塗布されていることを特徴とする電気光学装置。
【請求項２】
請求項１において、前記シール領域で区画された領域内から該領域外に導出される前記第１の電極および前記第２の電極の配線部分のうち、前記導通材によって短絡するピッチで形成された狭ピッチ配線部分は、前記シール領域の４辺のうち、前記基板間導通領域が形成されていない辺部分を通っており、
当該辺上には、その全体にわたって前記第２のシール材が塗布されていることを特徴とする電気光学装置。
【請求項３】
請求項１または２において、前記電気光学物質は、液晶であることを特徴とする電気光学装置。
【請求項４】
請求項１ないし３のいずれかに規定する電気光学装置を表示部として備えていることを特

徴とする電子機器。
【請求項５】
第１の駆動用電極および第１の基板間導通用端子が複数形成された第１の基板と、第２の駆動用電極および第２の基板間導通用端子が複数形成された第２の基板とを準備した後、前記第１の基板および前記第２の基板のうちの少なくとも一方の基板にシール材を矩形枠状に塗布し、しかる後に、前記シール材を挟んで前記第１基板と前記第２の基板とを貼り合わせる電気光学装置の製造方法において、
前記シール材を矩形枠状に塗布する際、当該シール材を塗布する４辺のうち、前記第１の基板間導通用端子と前記第２の基板間導通用端子とによる基板間導通を行う基板間導通領域が位置する辺上には、その全体にわたって、導通材を含有する第１のシール材を塗布することを特徴とする電気光学装置の製造方法。
【請求項６】
請求項５において、前記第１の基板および前記第２の基板では、前記シール領域で区画された領域内から領域外に導出される前記第１の電極および前記第２の電極の配線部分のうち、前記導通材によって短絡するピッチで形成された狭ピッチ配線部分は、前記シール材を塗布する４辺のうち、前記基板間導通領域が形成されていない辺を通し、
当該辺上には、その全体にわたって、導通材を含有しない第２のシール材を塗布することを特徴とする電気光学装置の製造方法。
【請求項７】
請求項５または６において、前記電気光学物質は、液晶であることを特徴とする電気光学装置の製造方法。
【手続補正２】
【補正対象書類名】明細書
【補正対象項目名】０００５
【補正方法】変更
【補正の内容】
【０００５】
ここに示す液晶装置１Ａにおいて、第１の基板１０には、画像表示領域２で縦方向にストライプ状に延びた第１の電極パターン４０が形成され、その表面には配向膜１２が形成されている。第２の基板２０には、画像表示領域２で横方向にストライプ状に延びた第２の電極パターン５０が形成され、その表面には配向膜２２が形成されている。また、第２の基板２０において、第２の電極パターン５０の下層側には、遮光膜２３、カラーフィルタ７Ｒ、７Ｇ、７Ｂ、および平坦化膜２１が形成されている。
【手続補正３】
【補正対象書類名】明細書
【補正対象項目名】００１２
【補正方法】変更
【補正の内容】
【００１２】
【課題を解決するための手段】
上記課題を解決するため、本発明では、第１の駆動用電極および第１の基板間導通用端子が複数形成された第１の基板と、第２の駆動用電極および第２の基板間導通用端子が複数形成された第２の基板と、対向配置された前記第１基板と前記第２の基板との間をシールする矩形枠状のシール領域と、該シール領域で区画された領域内に保持された電気光学物質とを有し、前記シール領域には、前記第１の基板間導通用端子と前記第２の基板間導通用端子とを導通させる導電材を含有する第１のシール材と、導電材を含有しない第２のシール材とが塗布された電気光学装置において、前記シール領域の４辺のうち、前記第１の基板間導通用端子と前記第２の基板間導通用端子とによる基板間導通を行う基板間導通領域が位置する辺上には、その全体にわたって前記第１のシール材が塗布されていることを特徴とする。

【手続補正４】
【補正対象書類名】明細書
【補正対象項目名】００１３
【補正方法】変更
【補正の内容】
【００１３】
本発明では、第１の駆動用電極および第１の基板間導通用端子が複数形成された第１の基板と、第２の駆動用電極および第２の基板間導通用端子が複数形成された第２の基板とを準備した後、前記第１の基板および前記第２の基板のうちの少なくとも一方の基板にシール材を矩形枠状に塗布し、しかる後に、前記シール材を挟んで前記第１基板と前記第２の基板とを貼り合わせる電気光学装置の製造方法において、前記シール材を矩形枠状に塗布する際、当該シール材を塗布する４辺のうち、前記第１の基板間導通用端子と前記第２の基板間導通用端子とによる基板間導通を行う基板間導通領域が位置する辺上には、その全体にわたって、導通材を含有する第１のシール材を塗布することを特徴とする。